

第1回（仮称）古町地区将来ビジョン懇談会 議事録

日時：令和元年10月24日（木）午後5時10分～7時

会場：NEXT21 12階 IPC財団セミナー室

（司 会）

皆さま、本日はご多用のところお集まりいただきありがとうございます。定刻となりましたので、ただいまから、（仮称）古町地区将来ビジョン懇談会を開会いたします。始めに、配布資料のご案内をさせていただきます。本日お配りしました資料は、次第の下部に記載の配布資料一覧のとおりとなっております。本日の委員の出席状況についてですが、小澤委員の代理として佐野委員から出席いただいております。そのほかは全員出席でございます。

次に、本日の流れについて、ご説明します。本日は第1回目でございますので、議事に入る前に、「委員の皆様のご紹介」、そして、懇談会を進行していただく「座長の選出」をしていただきたいと思いますと考えております。その後、議題としまして、（仮称）古町地区将来ビジョンの策定について、事務局より資料に基づいてご説明をさせていただいた後、委員の皆様から意見交換をしていただきたいと思いますと考えております。

本日の懇談会は、2時間程度を予定しております。ご協力をお願いいたします。

ここで会議に先立ちまして、お願い事項を申し上げます。本日の懇談会は、（仮称）古町地区将来ビジョン懇談会開催要綱第5条第3項の規定により、公開での開催となります。新聞8社、テレビ局2社より取材の要請がありましたので、撮影、録音等について、どうぞご了承ください。また、2名の方が所定の手続きに従い、傍聴の受付を済ませていらっしゃいますので、ご報告いたします。会議概要については、後日、新潟市のホームページで公開させていただきます。公開する内容につきましては、事前に委員の皆様にご確認いただきたいと思いますと考えておりますので、ご協力をお願いいたします。

最後に、本日の会議は、記録用として、事務局で撮影、録音をさせていただきますので、ご了承をお願いいたします。

それでは、はじめに統括政策監の中川よりごあいさつ申し上げます。

（統括政策監）

ただいま、ご紹介いただきました、新潟市政策企画部統括政策監の中川でございます。よろしくをお願いいたします。

まずはじめに、本日、お忙しい中、お集まりいただきまして、まことにありがとうございます。あわせまして、この懇談会の委員にご就任いただくこと、大変急な中でお願いしましたにもかかわらず、快くお引き受けいただいたこと、あわせて感謝申し上げます。ありがとうございます。

まだ、仮称の状態でございますが、これから皆様方のご意見を頂きながら、私ども、作成しようとしている古町地区将来ビジョンでございますが、私たちのねらいといたしましては、広く市民の方々から同じ目線で、同じ思い、イメージを共有していただくと。そういったものにしたいたいと考えているところでございます。ビジョンにつきましては、現時点においては、拘束力ですとか、強制的なものは今、想定してございませんが、今後、古町にかかわる方々、さまざまな方々から、なるほど、古町はこういう方向で行きたいのだねというような指針になったり、また古町に住んでおられる方、また住んでおられなくても広く市民の方々から古町って、やはりこうだよねとか、こうなったらいいねというようなビジョンになったらいいなと考えているところでございます。今年度内の策定を目指しておりまして、非常に時間的にも厳しい状態ではございますが、ぜひ皆様方のお力をお借りしながら作成していきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

(司 会)

それでは、次第3、委員紹介でございます。お配りしております資料1「(仮称)古町地区将来ビジョン懇談会委員名簿」をご覧ください。委員の皆様、そしてオブザーバーの田中所長におかれましては、一言ずつ自己紹介をお願いいたします。名簿の記載順ということで、西村委員より順番をお願いいたします。

(西村委員)

今、神戸芸術工科大学におります西村といいます。都市計画をやっているのですけれども、都市企画の中でも、歴史のある都市の都市計画というものをやってきました。歴史を生かしたまちづくりというものです。どうぞよろしくお願ひしたいと思ひます。

(岡崎委員)

新潟大学の岡崎です。よろしくお願ひします。

(長谷川(雪)委員)

新潟大学の長谷川と申します。よろしくお願ひいたします。

(前川委員)

新潟古町まちづくり株式会社代表取締役兼新潟中心商店街協同組合の理事長をやっております、前川と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。

(佐野委員代理)

新潟商工会議所の佐野と申します。本来は、委員であります事業部長の小沢が出席いたしますところ、本日、県外出張のために私、代理で参加させていただいております。どうぞよろしくお願ひいたします。

(迫委員)

遅くなってすみませんでした。上古町商店街の迫と申します。どうぞよろしくお願ひいたしま

す。

(長谷川(正)委員)

株式会社丸大の社長をしております、長谷川といいます。昨年までは店長をやっていました。社長として創業者ではありません。あくまでも現場上がりでこのまちづくりに関与していきたいと思っていますので、よろしくお願いいたします。

(宮田委員)

古町花街100年委員会事務局から参りました、宮田千奈美と申します。日ごろは、西堀前通9番町にて和食屋をやっております。よろしくお願いいたします。

(知野委員)

NPO法人まちづくり学校の知野孝子と申します。よろしくお願いいたします。

(田中オブザーバー)

国土交通省新潟国道事務所の田中でございます。よろしくお願いいたします。

(司 会)

ありがとうございました。

最後に本市の事務局になりますが、先ほど、ごあいさつを申し上げました、懇談会の庶務を行う政策企画部の中川統括政策監をはじめ、古町地区に関する記載の部区長が事務局となっております。どうぞよろしくお願いいたします。

次に、次第4、座長選出でございます。資料2「(仮称)古町地区将来ビジョン懇談会開催要綱」第4条の規定によりまして、懇談会には懇談会の進行を行う座長を置くこと、座長は委員の互選で選ぶこと、となっております。座長の選出に当たりまして、皆様からご意見等はございませんでしょうか。

(前川委員)

事務局のほうで座長について案はございますでしょうか。

(事務局)

事務局といたしましては、今回の古町地区将来ビジョンの作成に当たりまして、大きくかかわっております、新潟都心の都市デザインを監修していただきました、西村先生からぜひ座長をと考えております。いかがでございますでしょうか。

(意義なしの声)

(司 会)

それでは、西村委員に座長をお願いすることといたします。西村委員におかれましては、座長席にご移動をお願いいたします。

(座 長)

すみません、隣に移るだけで。

私一人よそ者みたいですがけれども、その中、座長をしていいのかということもありますけれども、昨年だったか、47都道府県庁所在地を扱った「県都物語」という本を書いたのです。新潟のこともかなり一生懸命考えまして、書きました。私のそのときの印象は、47都道府県庁所在地で、近代にできた都市が四つあるのです。札幌と横浜、神戸、宮崎が新しいまちなのです。それ以外は、もちろん江戸時代からあるまちなのですけれども、その残りを取り出すと新潟がいちばん新しいのです。1655年に移ってきたわけですがけれども、今のまちとしては一番新しいので、これより次が、実は青森なのです。青森が1624年にできているので、両方ともみなとまちなのですけれども。青森の場合は、戦災に遭いましたので、その後、区画整備になるわけですが、新潟はご承知のとおり戦災に遭わなかったもので、その意味で、江戸時代の構造が残っていて、1655年にできたということは、当時、城下町の建設が終わっていますので、大規模な城下町で周辺部を拡張するようなことはありましたけれども、ほとんど土地開発の最後なのです。つまり江戸時代の初期に行われていた大都市建設時代の一番最後にすべての知恵を使って、そのとき一番最先端の計画を立てたと。城下町だと武家地があるので、ある種、一つのスタイルがあるわけですがけれども、全くの機能都市、商業都市とみなとまちとして作ったという、大変近世が作り上げた一つの最終成果物なのです。それが戦災にも遭わずに残っているというのは、なかなか日本の中ではすごいなと思うておりました。ですから、そこのビジョンを作るという会議に参加できて、大変光栄です。

ビジョンを作るには少し慌ただしいので、こんなのでいいのかという気もしますが、まずはきちんと議論をして、こんな形で、今日、メンバーも少ないので、その意味では、いろいろな形でご発言を必ずしていただいて、それを次からの資料作成に反映させていくように、私としても事務局に言いたいと思いますので、どうぞよろしくお願ひしたいと思ひます。

(司 会)

ありがとうございます。

それでは、以降の進行につきましては、西村座長にお願いしたいと思ひますが、なお、大変恐縮ですが、西村座長におかれましては、座長としての役割だけではなく、積極的に議論にもご参画いただき、ご意見いただきたいと思ひておひます。

それでは、座長よろしくお願ひいたします。

(座 長)

5、(仮称)古町地区将来ビジョンについてということで、(1)と(2)がありますが、まとめて報告をいただいて、先ほど申し上げましたように、皆さん、今日必ず二言、三言、言ってもらおうということでよろしくお願ひしたいと思ひます。

それでは、事務局からご説明をお願ひします。

(事務局)

事務局から資料についてご説明させていただきます。(1)と(2)を一括で説明させていただきます。はじめに古町地区将来ビジョンの策定についてということで、**資料3**をご覧ください。

2ページ目でございます。ビジョン策定に当たっての背景ということで記述させていただきました。中身にもございますように、開港150周年を迎える中で、これまでの新潟のまちの形成過程や歴史を振り返りながら、今後の本市の将来像を明示した新潟都心の都市デザインを昨年、県と新潟市で策定しました。その中で、当該古町地区でございますが、旧市街・開化ゾーンと位置づけられておりますが、古町地区につきましては、今ほど申しましたとおり、来年春、三越の閉店や、また古町ルフルのオープンなど、まちにとっても大きな変革を迎える時期となっております。そこで市といたしましても、この大きな動きの中で、古町地区の将来に対し、市としての一定の方向性を示したいというふうに考えているものでございます。今ほど申し上げました、ビジョン策定の大きな背景の一つでございます、新潟都心の都市デザインにつきましては、3ページ目にその概要を記載してございます。県と新潟の顔とも言える新潟駅から古町までの都心軸を中心にしたまちづくりの将来像を明示化したものでございます。

詳細につきましては、参考資料でも概要版を用意してありますので、ご覧いただきたいと思いますが、4ページ目に都心の都市デザインについてのポイントということで、幾つか抜粋してございます。信濃川のめぐみとともに歴史を蓄積した新潟市ですが、川の恵みを受けながら、この川の流れに沿った都市構造を形成するとともに、その信濃川の流れに向かって垂直に交わる都市づくりを行って発展してきたという歴史を踏まえ、この縦と横の軸を今後の新潟の都市イメージとして、新潟にとってのアイデンティティを目指すというような形になっておろうかと思っております。

また、2ページ目の背景にも記述いたしましたが、すでにこの都心の都市デザインに位置づけられた各ゾーンにさまざまな体制のもと、個々に具体の検討作業が動き出しているというところでございます。

次に5ページ目の策定主体及び目的のうちの策定主体でございます。本日、お集まりいただきました皆様方からご意見を頂きながら、我々新潟市が事務局となりまして、ビジョンを策定していきたいと考えております。そして目的でございます。繰り返しになりますが、来年3月には新潟三越の閉店、5月には古町ルフルのオープンといった大きな変革の時期を迎えるにあたり、古町に対して市民のだれもが共有できるようなイメージを作成し、今後、そこにかかわる人々を含めた多くの新潟市民が同じ思いで、同じ方向を向いて当該地区のまちづくりに向かうことができる方向性をまとめ上げていきたいというものでございます。

古町地区に対するイメージはさまざまあるかと思いますが、一つ目の丸にもありますように、ビジョンという言葉もあいまいな表現となっておりますが、ここでは今回は一定のご審議の中で、基本的な考え方を整理していきます。したがって、個々具体的、詳細なものではなく、イメ

ージ的なものとして、一つの方向性を示すランドデザインというような形のものを、イメージしてございます。

また、ビジョンのできあがりのイメージなのですけれども、イメージパース、絵を使って、だれが見ても分かりやすいような魅力のある古町地区の将来像をデザインとしたいと思っております。そして、ビジョン区域における具体の開発に当たりましては、個々の事業者、多様な関係者が、共通の視点で統一感を持った事業展開が図れるようなもの。そういうような使われ方ができればと考えているところでございます。

時間の関係もありますので、説明についてはさっと進ませていただきます。

次に、具体的な本ビジョンの対象の区域、古町ビジョンの対象区域エリアでございます。6ページにございますように、新潟島の中の赤い線で囲われた区域を対象エリアとしたいと考えております。この区域は、平成24年度まで稼働しておりました、新潟市中心市街地活性化基本計画における新潟島側の重点区域と重なっているというところでございます。

ただ、当然、この区域を議論するに当たりましては、下町（しもまち）をはじめとしました隣接している周辺区域、当然、ここの関連性も視野に入れながら、進めていきたいと考えております。

続きまして、7ページ目以降につきましては、上位計画との整合性として、資料をまとめさせてもらっております。詳細な説明は省略させていただきますが、新潟市の将来像を示しました新潟市の総合計画でもあります「にいがた未来ビジョン」をはじめ、まちづくり関連では、新潟市における都市計画の基本的な方針であります「都市計画マスタープラン」など、各種の関連計画との整合性を保ちながら、策定をさせていただきたいと思っております。

続きまして、今、ご覧いただいている資料3の最後のスケジュールでございます。10ページでございますが、本日を含め合計3回の中でまとめていきたいと、年度内に公表していきたいと考えております。大変タイトな日程となっておりますが、ぜひともお力をお貸ししていただければと思っております。よろしく願いいたします。

続きまして、一番、話の中心になってまいります、ビジョンの構成でございます。資料4をご覧ください。順次ご説明させていただきます。

最初に、2ページ目でございますが、ビジョンの構成という形で目次的に項目の頭出しをさせていただいております。各項目の内容につきましては、以降のページにそれぞれ個々書いてございますが、最初の2ページ目で、ビジョンとしてはこんな内容を書き込んでいきたいといったものをお示ししてございます。

はじめにといたしまして、これまで申し上げてきました本ビジョンの策定趣旨を冒頭に掲げ、次の3ページで当該地区の背景をとらえるために、古町地区の歴史ということで、3ページ目以降5ページ目くらいまで、簡単ではありますが、歴史的なものを押さえさせてもらっております。

そして、この歴史の中で、特に古町につきましては、都心の都市デザインに書いてあるほかのゾーンとは少し違う、いわゆる歴史と地理を踏まえた状態で、今後、どういう形で進めていきたいかといったところの入口部分にさせていただきたいと考えています。

それらを踏まえたうえで、6ページ目以降、現状と課題といたしまして、整理をさせていただきたいと思いますが、この現状と課題の考察にあたりましては、実は平成29年度に新潟市と商工会議所と地元の新潟古町まちづくり株式会社で作成いたしました、古町活性化まちづくり検討業務委託報告書というものがございます。こちらをベースに現状と課題を整理させていただきたいと考えています。この報告書につきましては、**参考資料3**という形で、一番厚い資料になってございます。中身についての詳細は、個々に一個ずつご説明は省略いたしますが、こちらをご覧ください。ここに書いてある現状と課題を拾い上げて、現状ですとか、活性化の方向性みたいなものを拾い上げて、この**資料4**を作成しております。

それでは、**資料4**に戻りまして、7ページ目、エリア分け・ビジョンの方向性でございます。先ほど、対象地域を赤い線で囲われたところとさせていただいたのですが、赤いエリアも相当広うございますので、私どものほうでエリア、対象区域を五つに区切って、一旦スタートさせていただきたいと思います。これにつきましては、固定のものではございませんので、議論の中でもっと細分化したほうがよいとか、もしくはもう少し合体させたほうがよいというようなご意見がありましたら、そちらの中でまた進めさせていただきたいのですが、一旦、我々事務局といたしましては、五つのエリアで、分けをさせていただきました。

7ページのところに5つ書いてございますが、古町花街エリア、榎谷小路エリア、古町モールエリア、本町エリア、上古町エリアという形で色分けをしながら、このエリアごとに、このエリアが今、どういう現状にあり、どういった方向性を持っていったらいいかというあたりのご意見を頂きたいと考えているところでございます。

そして8ページ目からです。各エリアのビジョン、方向性（案）ということで、現状、地域資源と活性化の方向性を記載し、そして10ページ目以降から各エリアにそれぞれ写真や区域をさらに大きくしまして、現状、ビジョンの方向性みたいなものを記載させていただきました。これはあくまで事務局のたたき台でございますので、ここに見直し、修正、加筆をできればと。皆様からのご意見を基にどんどん書き込んでいければと考えているところでございます。

特にこの活性化の方向性につきましては、今回のビジョンの中でも大事な部分と考えておりますので、ご意見を頂くにあたって、**資料5**として、エリアごとの現況写真という形で、資料を用意させていただきました。写真とともに、現状とビジョンの方向性をそれぞれ書きながらまとめたものでございますが、特に現状、ビジョンの方向性のところの活字につきましては、黒字で書いてあるものは、今ほど申し上げました、平成29年度に策定しました、委託業務報告書に書いてある現状とビジョンの方向性になってございます。そこに青字で書いたものが、今回、我々が一

且、事務局として加筆、加えさせていただいた。こんな方向性もあっていいのではないかということで書かせていただいたものでございます。ですので、実はめくっていきますと、本町エリア、上古町エリアにつきましては、ほとんどがブルーの字になってございます。こちらは、実は平成29年度の報告書の中では、エリアとして設定されていなかった区域でございますので、今回、新たに五つのエリアの中に入れた二つでございますので、事務局のほうで書いたブルーの字が多くなっているという形でございます。

委員の方に手元に参考資料という形で、同じようなものでもう一つ、右隅に赤くタグがついているものがございます。こちらにつきましては、議論を進めやすくしていただきたいと思ひまして、事務局のほうで作ったものでございまして、ここに書いてあるコメントについての善し悪しは市としての判断というよりも、このような見方もあるのではないかということで、皆様方の意見を出しやすくしたと言ったら大変失礼ですけれども、そんな方向でお話ししていただけるネタになればなということで、作ったものでございます。

例えば、この資料の2ページ目をご覧になっていただきたいのですが、写真 No. 1 と書いてあるものでございますが、古町花街エリアの将来像検討のための参考資料（案）というものがございます。こちら鍋茶屋沿いの東新道の写真を例に取りまして、右側の歴史ある外観に対しまして、左側の建物の突き出し看板類や壁面が対照的な景観になっているのではないかと。資料右上の活性化の方向性の中では、歴史・文化的な街並みを活用し、誘客を図るという設定でありますので、電線類の地中化や左側建物の看板の統一ですとか、壁面の色調を右の景観に合わせるなどを誘導し、この通りを歴史的な統一感のある街並みとするといった方向でいってはどうかというような形の事務局案を説明した資料でございます。以降のページの中で、順次、各エリアのたたき台を表現してみましたので、議論のご参考にしていただければと思っております。

最後でございますが、今ほど述べた資料のほかに、参考資料1といたしまして、新潟都心の都市デザインの概要。参考資料2として、都市デザインの各ゾーンの取組み体制。参考資料3といたしまして、平成29年度古町活性化まちづくり検討業務委託報告書。参考資料4として、古町周辺における最近の動向や取組みを紹介する資料等を用意してございますので、ご議論していただく中での参考になればと考えております。

皆様方のご意見を広く頂きたいので、資料の説明を非常に早くさっと流すような形で説明してしまいましたけれども、事務局といたしまして、ぜひお願いしたいというのが、対象エリア内を今、5つで区切っているというあたり。そして、その5つのエリアに対して、どのような方向性を持ったらいいかというあたりの2点について、ご意見を頂けたらありがたいと思っております。

この点で頂いたご意見を基に、次回第2回では、絵みたいなものを用意させていただいて、さらにその議論を深めさせていただきたいと考えているところでございますので、ぜひともよろしくをお願いします。

以上、早口でございましたが、資料の説明でございます。

(座 長)

ということで、メインの議論は、**資料4**でゾーン分けと方向性みたいなものに関してコメントが欲しいということですが、それ以前に全体でこういうセッティングに関してご質問もあろうかと思っておりますので、全体で質問をしていただいて、その次に中身に関する議論をしたいと思いますが、私のほうからいいですか。

まず、仮称と書いてありますが、これは取れるのですか。でき上がったところで取れるというイメージでしょうか。

(事務局)

そうですね。この3回の中で、ネーミングにつきましても、取っていきたいと思っています。

(座 長)

3月末というのは、三越の閉店ということがあるので、そのときにはこういうものがきちんとできている必要があるという感じで、そこはお尻が決まっているという感じでいいのですね。

(事務局)

はい。

(座 長)

でき上がるもののイメージですが、**資料3**の3ページ、これは私もかかわりましたけれども、都心の都市デザインについてというもので、ここに少しパーツがあって、道がかいてあつたりいろいろありますけれども、こういうイメージということですか。それが幾つかのゾーンごとにあるような感じのことを考えておられるのでしょうか。

(事務局)

はい、そんな感じになります。

(座 長)

それがいいかどうかも含めて議論していただいてかまわないと思いますけれども、一応、事務局のイメージはそのような。

(迫委員)

たくさん資料があったのですが、わりと分かりやすかったという印象です。私は、上古町でやっているのですが、この名称についてなのですが、上古町エリアというよりも、最近、私としては門前ということをつけよう強化したいと思っております、白山神社でしたり、県政記念館というところが非常にポイントとなって、県外からお客さんがいらっしゃったり、お正月などそういう時期やまつりのときはにぎわっていますので、上古町門前エリアとか、そういう名称にしていただけると、イメージが付きやすいですし、遠方の方がいらっしゃるときには、古いものが好きな方などはお越しいただいたり、縁起がいい感じもしますので、ありがたいなど

ということが一つ。

ですので、若者向け、ファッション店やセレクトショップを活用したファッション・カルチャーエリアというカタカナ語が何か安っぽいなという感じが非常に。ファッション・カルチャーというのはどうかということもありますし、糶屋さんでしたり、門前を感じさせるようなお店も非常にあります。また、明和義人祭というような地域に根ざした歴史あるイベントもありますので、もう少し歴史があるような雰囲気も、古くて新しいということが我々のポイントですので、歴史も要素に入れてもらえると、若い人も楽しめるのかなと感じました。

もう一点なのですけれども、いろいろビジョンの中で、至るところに賑わいを創出と書いてあるのです。そんなに賑わいの創出が重要かということをお感じしているというか、賑わいとはそもそも何なのかという前提が大事なのかなと思ったりもしますので、とにかく賑わいを創出ばかり入れると、人が来ていなければうまくいっていないというとらえられ方になる可能性が非常に高いかなという気がしますので、地域によっては住民の満足度を上げるだったり、充実感を高める取組みをすとか、認識を高めるだったり、そういう言い方ができるといいのかなと思います。

(座 長)

最初のネーミングとカタカナ語ではないということは、**資料4**の7ページのところです。

(迫委員)

そうです。

(座 長)

中身の議論になっていますので、それでもかまわないので、質問でも、中身の議論でもけっこうですので、ご意見いただければと思いますけれども。

(長谷川(正)委員)

資料4の古町の課題というのがあるじゃないですか。今、古町地区、本町地区で一番の課題は何だと考えるか。来客数が少なくなっているのは事実です。これはある機関がやった結果だともうのですけれども、それを修正かけたのですけれども、なかなか一個人では修正できなかったという今の郊外から来るお客様をどうやって持ってこられるか。まず、新潟島にお客様が来なければ、こういった事業というのはいらないと思うのです。ましてや今、上古町ですか。私もこの前、散策したのですけれども、すごくいい店がいっぱいあるじゃないですか。ところがその一つ上に行きますと、あれほど空き家があります。では、空き家対策はどうするのですか。そういった一つ一つ課題を明確にして、今後進めていかないと、やはりここだけはいいですよと表面的なことになってしまうのではないかと思います。

今回、この中にも書いてありましたけれども、来年の3月22日に古町地区の三越が閉店になりますよね。大和が閉店になったときに、どのくらい伸びたと思いますか。実は伸びていないのです。これは一つの百貨店が閉店したことによって、地方から来る人たちがいなくなってしまう

たのです。来なくなってしまったのです。逆に言ったら3月22日、三越が閉店したら、さらに来なくなる可能性があります。そのために、丸大はあえて投資をかけて、7月12日にオープンさせたのです。三越が閉店してからオープンしても、何の役にも立ちませんので、そこで攻めさせてもらいました。そういう一つ一つの努力も皆さんお持ちだと思うのです。そういったものも、この場で言ってもらえれば、私らもすごく勉強になるので、ひとつどうかよろしくお願ひしたい。空き家対策と今のBRT問題というものを解決しない限りは、ビジョンといってもというのが現場の話です。

(座長)

ありがとうございます。つまりあまり賑わいもここだけの表面的な問題ではなくて、もう少し総合的な問題がここにあるのではないかと。ここも一緒に考えるべきだということですね。

(宮田委員)

私は古町花街、それこそ150周年というもの、北前船の寄港地と言われて、食文化、料亭文化という流れで、私たちのまちのエリアというのは、とにかくその流れで何とかつながっていけるかなということをやっているのですけれども、今、この5つのエリアと言われていたのですけれども、私は、歴史あるのであれば、港150周年であれば、港から人が入ってくるようなストーリーを持たせて、私たち花街の部分も湊稲荷神社もあるわけだし、日和山のところから船が出るのを見て、船を出したとか、そういう歴史のストーリーがあるわけだから、そこをつなげていって、しもから古町花街に入っていただいと。やはりけっこう女性の一人旅の方などもすごく多くて、そういう歴史をつなげて、まちをご案内差し上げると、すごく目をきらきらさせて、こんなにいいまちだったのですねという、新しい発見ができて、教えてもらえてうれしかったと。そのように広がっていくし、そういう表現を私たちができることというのは、学ばなければいけないのですけれども、ストーリーをもっと押し出してくれる、作っていかなければいけないなど。せっかくあるのに。そこは県外の方をお迎えして、よろこんでくださるといふことがあるので。

(座長)

これは割と現象的だと、ゾーン分けがね。もう少し歴史の中でいろいろあるから、そういうものをきちんと。

(宮田委員)

つなげてもらうのもいいかと。

(座長)

つなげていくと、もう少しいろいろ深みが出るのではないかとということですね。

何度も発言していただきますので、どうぞ。

(前川委員)

私は中心商店街を取り組んでいて、上古町以外のところの古町5・6・7・8・9番町と梶谷

小路と本町6番町が構成している協同組合の代表をさせていただいているのですけれども、実は私、もともとの母体の所属というのは榎谷小路の商店街になります。そこで実は商業ビルを平成18年にオープンさせて、貸しビル業みたいな形の本業を営んでいるのですけれども、先ほど、迫さんが、上古町エリアは門前町というようなイメージがあるということで、それぞれの街区でイメージを持つことは非常に大切だということは言い続けているのです。

では、もともとあなたのところの榎谷小路はどうなんだいという話になったときに、榎谷小路は、実は、立地からすると、あまり商店街っぽくないのです。ビルが建って、金融の業種が非常に多くて、本当に商店街なのかという部分はあるのですけれども、実はバス停がたくさん点在して、新潟の郊外のほう、あるいは新潟駅方面に向かうというバス停が集約していて、公共交通のバスの発着点として、非常に古町の利用の人たちが多い場所なのです。すなわち、古町の玄関口みたいなイメージがあるのです。ですので、我々の商店街でまずやはり力を入れるべきなのは、玄関口としてふさわしいようなしつらえ。そのために五、六年前に、その前に上古町がアーケードを整備されたのですけれども、その後、本町が改修した後に、古いアーケードを全部架け替えようと。国と新潟市からの多大なご協力を頂きながら整備をして、玄関口にふさわしいような整備をしてきました。ただ、環境の整備という部分では、まだまだ至らないところがたくさんあって、ソフトの面などもあるのですけれども、そういった一つ一つの街区のところのテーマみたいなものをきちんと考えて進めていくのが非常に大切なのかと思っています。

恐らく今、この5つの古町花街、榎谷小路、古町モール、本町、上古町という部分のとらえ方自体は、ピントは全然外れていないと思うのですけれども、さらにこここのところを突き詰めていくときに、これをまとめた一体的にしたときに、どのように外に対してアピールができるのかという部分のとりまとめが非常にやはり重要になっていくのかなと思っています。それは、歴史という部分の時系列の部分の切り口もあると思いますけれども、それだけではなくて、これから先の部分で、どういうイメージで展開していくのかという部分も踏まえて、考えていかないといけないのかなというところで、個々のいろいろな個性ある集積の中から一つの色としてどのように打ち出していくのかということは、非常に難しいところだなとは思っています。

(座 長)

最後のところのご発言は、エリアは一つ理解できるけれども全体としては一つではないという。

(前川委員)

というところは落としどころがなかなか難しいなと思っているので。

(座 長)

そこも考えてほしいと。といっても、逆に通りとして物語を持っていたりもあるので、そういうところまできちんと見てほしいと。全体を見るのと、そういうことというのは両方のことなわけですね。ありがとうございます。あとどうですか。

(知野委員)

まちづくり学校のほうとして、まちづくりの視点で携わらせていただいたことなのですが、古町の8番町、9番町のほうで、まず食のイベントを開催している古町花街のエリアについては、どちらかというとハードというよりは、ソフトの面で商店主の方々が、自分たちで作り上げてきたイベントがあったりですとか、食を発信したいということで、デスティネーションなどの県外の方々に発信していくような商店主の集まりができていくということに対しては、まちづくりの視点からすると、現場から自分たちで何をしたいというような取組みが立ち上がっていることはいいことかなと思っております。

ハードの面に関しましては、また逆にまち遺産の会であったり、花街の会であったり、そういう意味で個々のいろいろな諸団体の方々が頑張ってまちを盛り上げていこうということができているのですけれども、先ほど、前川さんもおっしゃったように、全体でといったときに、一つ一つのエリアは確かに古町花街もいろいろな活動をしていますし、今、6番町などは、カフェというか、喫茶店というか、昔からあるようなそういうエリアで頑張らましようみたいな話も出ていたりですとか、いろいろな各ゾーンでは、個々で頑張っているのだけれども、古町全体でいうと、なかなかそれを一つの表現にしていくということは、少し難しいのかなと、今の話を聞いて思いました。

(座 長)

いろいろなものがあります。例えば、京都を見たときに、確かに京都は一つのイメージがありますけれども、それぞれの地区がありますよね。そういうそれぞれが競い合うみたいなこともあろうでしょうけれども、全体像は分かりました。ありがとうございます。ほかに何か。

(長谷川(雪)委員)

実はそこまで実際に古町に携わっているというわけではないので、非常に素人目線のところもあるかと思うのですけれども、ビジョンを見て思ったのが、少し表面的なのかなと。背後にどういう人の流れがあって、どういう人が来てくれて、どういう人を集めたいのかということが少し見えないと、一体、本町にはだれが来るのかとか、県外の方がなかなか、市内の人が来るのかとか、エリアによってももしかしたら呼ぶ人も違ってくるかもしれないし、来てほしい人も違うかもしれないというところ。どういう人の流れを想定しているのかなというところを少し入れてほしいなど。

あとは暮らしというのでしょうか。住むという面はここに入らなくてもいいのかと。このゾーンとかよりも、一応、想定しているところはもう少し広いですから、そうすると暮らすという部分も入ってくる中で、その視点というものも。もともとのベースになった報告書には少し入っていたような気がするのですけれども、今回のビジョンのところには、暮らす視点があまり今、見えなかったような気がして。それを入れる、入れないの是非はもちろんあるかと思うのです

けれども、少し検討を頂いたほうがいいように思います。

(座 長)

聞いてみましょうか。事務局には、ひととおり発言が終わったところで答えてもらうということで、準備をしておいてください。

ターゲットが来ると、賑わいの先ほどの議論もそうだけれども、どういう人に来てもらいたいのか。ターゲットのイメージがあまり感じられないということ。住むというところに関しては、ここでどれくらいを扱うかということですよ。それについての議論もすればいいのか。もう少し古町地区全体の議論をするということがもっと多様な課題についてという発言ですね。ありがとうございます。

(長谷川(正) 委員)

だれをターゲットにするというデータなのですけれども、うちの店を中心として、半径2キロ、商圏2キロですが6万7,000人います。その6万7,000人いる人たちの高齢化、要は65歳以上は何と40パーセントもいるわけです。だとしたら、今、古町が非常に抱えている問題というのは、子育てということだということが出てこないといけないのではないかとということが一つあると思いますし、今、信濃川沿いにできている大きなマンションは、実は核家族の人が入っているわけではないのです。あれは新潟郊外からの退職者もそうなのですけれども、昔からある地域ごとのわだかまりを捨てて、マンションに移ってくるという人がけっこういるのです。そういうデータもあるのですけれども、だれをターゲットにするのかというものをまず明確にしたいし、もう一つ、どこを今後、ねらっていくのかという部分も都市づくりだと思うのです。

(座 長)

今のご発言は、ある意味、半径2キロ以内にいる6万7,000人の人が、まず最初のターゲットだと。

(長谷川(正) 委員)

まずは食なので。

(座 長)

というように考えると、それも業種が少しずつ違って来るかもしれないと。

(長谷川(正) 委員)

そうですね。

(迫委員)

そのターゲットは、だれがこの会議で決めるのかということか、新潟市としてのターゲットはこうですとすることで、整備の強化だったり、お金の使い方を決めていくということではないのでしょうか。それがどうなのかと思って。上古町とかですと、半分くらいが県外の方が非常に多くなっております。ガイドブックなどたくさん載っているのです、それで非常に成立するお店が増えて

いる。あとはライブだったり講演会、学会などがあつた方が、第二、第三の目的でまちに寄ってくださって、お買い物してくださる。もしくは先ほどおっしゃったような信濃川沿いの少しお金がある方たちの転勤族の方だったり、遠くから来られた方が、まちの雰囲気を入りに入っていて、上得意様になるという傾向が非常に強いのですので、ターゲットはお店ごとでは違うのですけれども、市としてどういう風にしたいというか。

(座 長)

それだけ聞いてみましょう。直接的な質問なので、どうですか。

(事務局)

市としては、ターゲットを当然、いろいろな業種、業態があつた中で、いろいろなジャンルの方もいらっしゃると思うのですけれども、市として、こういう人を対象にというのは、このビジョンの中ではこだわらざるつもりはございません。

ただ、世の中の状況などを考えると、人口がこれから何千人も、何万人も増やしていくという政策をしたとしても、現実にその効果が出るのはもっと何十年後も先なので、やはり交流人口という、いわゆるお住みにならない方の昼間に新潟島に来ていただくということが、第一のターゲットではないかと、まず考えています。それは市外の方も、観光客もそうですけれども、それが第一と考えています。

それから、長谷川社長から空き家がうんぬんとありましたけれども、このエリアのゾーンの方が、必要最低限の買い物のために、わざわざどこかへ出掛けるということは、少し住みにくいまちなのだらうと思っていますので、そこは必要最低限担保していく。

要するにまちとしての生活のしやすさみたいな部分は、やはりこのエリアの中は、エリアの中の人たちが暮らしていけるような商圈なり、ターゲットとしているようなお店も、それは必要だとは思いますが。ただ、新幹線に乗ってきていただくというような特殊な方、そういうところの部分については、それぞれの売りのゾーンがあるわけです。そのために来ていただくことは、先ほど言ったように、交流人口の拡大ということは、大歓迎だと思っています。

ただ、その両極端の中で、やはり古町自体がポテンシャルを上げて、元気になっていかないと、新潟市全体がどうも疲弊感を持ってしまうということが懸念されていますので、やはりここは高望みかもしれませんが、住んでいる人はもとより、交流人口の増加、観光客、ツーリストみたいな形のほうが、現実的なのかなとは思っています。ただ、それは限定をしてビジョンを描くつもりはありませんので、一つのイメージとして、事務局としては考えているということで、今の段階の参考意見としてお聞きください。

(迫委員)

私も交流人口に対する県外の方へ向けてのアプローチが、今、古町は非常に弱いのかなと思って、地場の方に愛されていた地域ですので、弱いところの強化をすともっと伸びるのではない

かと思っていますし、それが早くに手をつけていたので、多少、賑わいが上古町は出てきたのかなという気がしています。

沼垂などは非常に頑張っているので、沼垂が頑張りだしたので負けないように、客層が被ったりするので負けないように取り組むということで、一緒に両方回ってくださる方が増えているので、良い機会だなと思っていますが、外の方を意識すると、非常に取組み方が変わってきますので、非常に楽しいのではないかという気がします。

もう一つ、余談なのですが、うちの若いスタッフに、県外の方が来るときにどこをお勧めするかとか、どこへ行ったらいいよね、ということを知ると、意外というところもあるのですが、出てきたのがヨーカドーさんなどを案内するといいいよねと出てきます。理由としては、“みかづき”ってどこにあるのだろうみたいな、イタリアンを食べたい方がいて、ヨーカドーにあるなど。まず本町を楽しんだ後、ヨーカドーに寄ればいいのか、タピオカのお店は、あそこのものが一番おいしいと若い子には言われているのですが、そういう意味では、県外の方も地域に愛されているヨーカドーさんでもすごく楽しめるという、何か視点を変える面白さが非常にあるのかなという気はしました。

(座 長)

だから巷で人気のあるところは、そういうもので外の人に人気が出るかもしれないと。

(迫委員)

そうですね。あとは楽観的な側面ですが、今、小学校や中学校は非常に地域の学習をしてくださっていて、私も子供がいますけれども、非常に地域のことを面白く思っているというか、古町と本町のことでけっこう知る機会が多いので、昔の20年くらい前よりは、地元を好きな人たちが増えていて、何か恩返しをしようとか、帰ってこようという意識が高まっているのかなという気はしています。

(岡崎委員)

大変分かりやすい資料を短期間でまとめられた担当の方が頑張ったのだろうということがよく分かります。大体、大事なことはここに全部書いてあるのではないかなと思います。逆に言えば、ビジョンの最初のところに、今回は、具体的な事業については触れないと書いてあって、その前段階ということで、それはそれで時間も短いですし、いいと思うのですが、ただ、将来目的のことを全く何も考えずにビジョンだけ作って、先ほど、拘束力がないという話もありましたし、何の役に立つのかが心配で、やはり具体的な形に結びつけることの前提のビジョンでないという意味がないと思うのです。もう言うべきことはすべてここに書かれてあるのではないかと思うのです。

数年前にも県の委員会もありましたし、多少なりとも具体的な方向に結びつけるのが大事なかなと思います。もちろんそれは皆さん、事務局の方々も十分ご承知うえのことでしょうから、最後

の例えばエリアごとの現況写真とかで、これを見るとだいぶ事業イメージが分かる気がしますけれども、そういうことも書いてありますので、ぜひとも最後、3月なりに終わったときには、これをやればよいというものが、それをどうやるのかということが見えているといいかと思えます。

先ほどから、皆さんのキーワードで歴史ということが出てくると思うのですがけれども、新潟市は歴史都市であるというイメージが大変弱いので、あるいはみなとまちというイメージも大変弱く、地元に住んでいれば当たり前のことなのではございますけれども、外から見るとそういったイメージがほとんどないので、そこをどうやって強化するかということの一つとして、役に立てばいいのかなと。あとは事務局が最初におっしゃったとおり、西大畑と下町が隣接していて、これも大変重要。すでにだいぶ活動が先行していますので、そこもこの絵に何も描かないというのはどうなのかなと思えます。

新潟は歴史都市であるということ、みなとまちであるということ、それから古町という言葉が全国的には全く知名度がないので、ここに書いてあるいろいろなエリアを含めて、古町というブランド形成といいますか、そういうことが必要なのかなと思えます。

我々は歴史まちづくり推進協議会を立ち上げまして、歴史まちづくり法をやるのが一番であり、必ず効果が出ると分かっているので、そこに絞って下準備をして、いろいろな組織を立ち上げて調整しつつあるわけではございますけれども。もう一つ、商工会議所の方たちとまちづくりについて検討したときの地域再生計画ですか。地域再生法の、あれもありましたよね。名前は覚えていないのですが、政策指針みたいなものがホームページに出ていますけれども、そこに歴史まちづくりと空き家対策と何とかと。あれと似ているようでどこが違うのか。そこが分からなかったもので、それとの関係を教えていただきたいのですが。

(事務局)

今、既存の計画のことがいくつか出てきましたけれども、岡崎先生が言われているように、このビジョンでこれからどうするのかということは、多分、古町花街は、我々も冒頭にお聞きしましたけれども、皆さんけっこうイメージしやすいので、あのまちを保存したりなどするのであれば、どのようなルールがいいとか、どういう手法がいいかと比較的イメージしやすいと思うのです。

イメージしやすいものをみんな今まで口頭で言っていたものを、一つのビジョンという形で示せば、それを基に整備をするためにいろいろな法律、制度を所管する国のメニューもありますけれども、そういうものを使いながら目的に達するためのビジョンにさせていただければなと思っています。それは単純に整備をするときのビジョンもあれば、役所的な言い方で大変申し訳ないのですが、規制やルールとかというときのビジョンというものもあると思います。要はこれを実現するために、どのように制度化をして守っていかせたほうがいいのかというルールもあると思います。

ただ、私が今言ったのは、あくまでもイメージしやすい古町花街については説明をしましたが、それ以外の地区でもっとより誘導したりとか、伸ばしていくべきというのは、当然、地区にあつたりしますし、もっとこういう施設とか、細かい言い方かもしれませんが、こんな業種、業態が集まってくれたらなと思うようなものもあるので、そういうところはむしろ今の既存の法律などがありきの中のビジョンよりは、どちらかというところ、こんな感じという言い方はおかしいかもしれませんが、このイメージに合うような業種、業態は、私はこんなところでこんなことをやってみたいな、といったように、ネタになればいいかなという感じです。

岡崎先生が言われた地域再生計画、空き店舗解消ですとかも言われているのですが、それも総務省の管轄する計画の中の5年間の時限立法ですとか、その中のハードとソフトのメニューと言われているものは確かにあります。ただ、それをねらいにいくのに、わざわざこのビジョンを作っているわけではなくて、このビジョンを実現するために、今からスタートするのであれば、総務省のそういう制度を使いながらやっていきましょう。歴まちの話が出たのであれば、歴まちの何かを使いながら、ここの部分は実現していきましょう。でも、ここは国土交通省管轄のこれを使いながらやっていきましょう、というような部分でもうまく使ってもらえるようなビジョンにしたいと考えてはいます。

当然、市がやることだけではないので、皆さんがやることに対して、またお手伝いできることがあればお手伝いするためには、どういう制度があればお手伝いできるのか、そういった部分もこのビジョンを使いながら取り組んでいきたいとは考えています。

(岡崎委員)

大体分かりました。一つだけ補足させていただきますと、歴史まちづくり法は花街のエリアだけではなく、上古町も下町、西大畑も全部、旧新潟町ほとんど全部やるとすればカバーすることになると思います。それは榎谷小路も含めて。

(座長)

ありがとうございます。今日は代理で出席されていますけれども、何かあれば。

(佐野委員代理)

皆さんいろいろなご意見をおっしゃっていただいて、みんなそれぞれごもっともでいらっしゃるし、ここのエリア分けもすごく各エリアに準じた内容になっていると思うのですが、私たち、各商店街の方と交流を持つ機会がたくさんあって、お話を聞く機会もあるのですが、だれに商店街に来てほしいか。ターゲットという話になったときに、やはりあらゆる世代の方というところからなかなか脱却してなくて、若い人にターゲットを絞るかといったらそうでもない。では高齢者、家族連れ、すべてがターゲットだということからなかなか脱却することができなくて、ターゲットを絞り切れていないというところが一歩先に出づらいところではあるのかなと考えています。

私は昨年、古町5番町の勉強会に参加させてもらったのですが、そこではどういう人たちをターゲットにするかというところから始まって、商店街のキャッチコピーを考えましょうと。古町5番町はハイカラなまちという、一つハイカラというキャッチフレーズが出てきて、おしゃれなお店がたくさんあるし、おしゃれをしてまちに出てくる人も大勢いるしというところで、ハイカラという一つキャッチフレーズが出てきて、それをイメージしながら、商店街の事業なりしていくようなお話も出ていたので、古町は各番町広いので、番町ごとに一つそういったターゲットを絞ってイメージづくりをすることも一つかなと思いつつながら、普段、皆さんのお話をお聞きしたりしています。

(座 長)

そのためには、地域のイメージがもう少し明確になると、それによってターゲットも決まるということですね。ありがとうございます。

オブザーバーですけれども、田中所長、何かご発言がもしあれば。

(田中オブザーバー)

オブザーバーはどういう立場なのかよく分からないですけれども、新潟国道の田中です。

恐らく柘谷小路を管理しているから呼ばれていると思うのですが、あまりその観点でこの資料を見ると言うことはほとんどないです。

私は昨年9月に着任いたしまして、いわゆるよそ者でございます。その観点から一つ。

皆さんの意見と重なるところが多いのですけれども、そもそも古町をどうしたいのか。皆さんがどのように思われているのかということ。それはもう少し言うと、多分、そもそも新潟市をどうしたいのかとか、新潟市で言えば新潟駅と万代エリアとどういうすみ分けをしようとしているのかということが何も決まらないままにずっとここ10年やっているのではないかなということが、私のここ1年ちょっといる感じの感覚です。総花的にずっと何となくやってきてという言い方は悪いかもしれませんが、地盤沈下が進んでいるというのが今の実体なのではないかと思えます。

資料を見せていただくと、やはり何となく総花的な資料になりつつあって、今日、来ている委員の方々もそれぞれの関係者であって、それぞれに利害が違うので、こういう形になるのはしかたないのかなと、行政の人間としては思うのです。新潟に住んでよそ者としてやってきた者からすると、少しテーマを決めて、核となるものをきちんと作ってあげないと、このままになるのではないかなということがすごくあるのかなというのが感想です。

もう一つは、外から来ている感覚からすると、やはり新潟市だけではなくて、新潟県全体なのかもしれないですけれども、PR下手だと思っただけで、やはり私も初めて来ましたときには、先ほど、先生が使われた、そもそもみなとまちだという認識もほとんどなく、歴史があるとも何も考えずに、昨年の5月に着任して、ここから学んできていますけれども、そういうものをどう

やってアピールをしていくのか。その中で、古町をどのようにアピールするのかということを中心に決めないと、多分、これは今、分けられてありますけれども、これを全部、例えば東京から来る人とか、県外から来る人などに、もっと言えば海外から来る人に見せたら、多分、何だかよく分からないとなる。何なんだと言われたときに、こういうところがあった、だから行きたいのだというようにできるのかどうか。何でキャッチするのかということは、きちんと決めてあげないといけないのかなとは思っています。それぞれお立場があると思うので、言いづらいと思うので、オブザーバー的な発言としてはどうかと思いますけれども、こういうことがあるかと聞いていて思いました。

(座 長)

今、ほかの委員の方からもありましたけれども、全体として何かメッセージがあるかと。一つずつエリアに関しては、それなりのビジョンが描けたとして、それを集めたときに何なのかということに関してのメッセージを工夫しないといけないと。一応、ワンラウンド終わりましたけれども、少し事務局のほうで何か今の議論を聞いて、お聞きすることがあったらまた聞いていただいて、そしてまたもうワンラウンドご発言いただこうかと思えます。

(事務局)

私も実は事務局なのですけれども、正直言って、今、迷いながらこのビジョンに取り組んでいるという正直なところを申し上げます。特に一番大事なのは、的というか、だれを相手にするのですかと言ったときに、先ほど、長谷川先生がおっしゃったように、まず住んでいる人というのは、やはり大事なのだろうなと思えますし、その住んでいる人たちから学ぶ歴史というか、背景みたいなものがまちづくりの一番のベースになるのかと思っています。ただ、事務局として説明したように、今のこのご時世の中で、そういった住む方がまずメインなのだけれども、当然、交流人口というところを逃すわけにはいかない。特に行政としては、そこの部分を逃すわけには行かないので、ダブルスタンダードではないのですけれども、住む方にとっていいところは、多分、外から来た人にとっても面白いのだろうなというあたりのところから、住む方を大事にしつつ、そんなことができるかどうかはあれなのですけれども、そういったあたりの中で見たときに、各ゾーンごとに売りは何なのだろうとか、逆に言うと大切にしてきたものは何なのだろうというあたりを浮き出させながら、このビジョンの形みたいなものを作っていければなと考えています。

ただ、それがどういう手法で作っていったいいのか。どうやってまとめていったらいいのかということは、私自身もまだ手探りの状態ではありますので、メンバーと相談しながらになっていくのですけれども、その意味で、参考になるようなご意見が、今だいぶ出てきているので、ありがたいなと思っているのが正直なところではあります。

(座 長)

ターゲットに関しての悩みも深いということですね。住んでいる人がベースなのだけれども、

そこだけでいいのかと。そこだけだと何となく外に対して大きなメッセージが出しにくいと。どうしたものかということですね。

(知野委員)

今、住んでいる方というお話だったのですけれども、商店街というのはやはり営んでいる人というところが一番大切になってくるのかなという視点で見ると、対象範囲というところが先ほどから気になったのですけれども、都心軸を中心にしてという話の中で、古町8番、9番町は飲食店として頑張っているエリアなのですが、朱鷺メッセができて、柳都大橋があるのだけれども、柳都大橋を通過して広小路を通過して古町9番町側から入ってくるというような考え方をしたいなものも、こういうところに盛り込んでいただけると。

考え方というか、先ほど、宮田さんがおっしゃったように、下町も含めてずっと全体にもっと広がりができるのではないかとこの視点は、実際に営んでいる人たちは、榎谷小路から8番町、9番町までは、行くときは飲もうと思うから行くと思うのですけれども、帰りにバスまで歩くのはなかなかきついで、そういった現場の人たちとか、やはり営んでいる人だったり、それを使っている人たちの声をどうやって吸い上げて、それを形にするかというような場を持つようなこともあっていいのかなと思います。

ここだけで決めるのではなくて、そういう場を持った中でどのようなまちにしたいということも吸い上げていけるような。ここだけだとどうしても第三者的な意見も含めてそうですし、イメージもそうなのですが、実際にそこで住まわれている人だったり、営んでいる人だったりという人たちが本当はどう思っているのかということが反映されているのかどうかということが、ここではまだ見受けられないなということがあるので。

(座長)

それは3月までやるのに、具体的案件というのはとても無理なので、予算もない。どういう感じでやるのか難しいところですよ。

(迫委員)

当然、だれに向けてというところで、中の人に向けて新潟市の地元の人に向けてのものなのか、外に向けてのビジョンなのかで、全然違うアプローチになってくると思うので、レイヤーを作るというか、2種類というか、A面、B面みたいな感じでこのビジョンを作ると、もっとどっちつかずにならなくなってきていいのかなと。県外の人には歴史でうたったほうがいいでしょうけれども、古町の若者に対して、歴史と言ってもピンとこないというか、そんなの興味ないという方が多いと思うので。そうやっていくと分かりやすいとか、ターゲットも絞れていくので、すみ分けというか。

私たちのお店は具体的に言うと、県外の人にとっては新潟土産がある店ということでやっていますし、県内の人にとっては、楽しくなるようなセレクトの雑貨のお店というとらえ方をしてい

て、県内向けの雑誌には、そういう発信をしますし、県外向けのものに関しては地元のものがあるという発信をしますので。

(座 長)

使い分けをしていると。

(迫委員)

もちろんします。そうすることで、お客様の視点でコピーも変わってきますので、それは古町地区というところもやれば良いと思います。ですので、県外に対して、できれば古町という言葉はもうしないようにするとか、新潟古町という合体させた名前にしてしまうとか、越後古町とかというようなゾーンといったほうがいいですし、そもそも古町エリアは旧市街として扱いたいというようなビジョンが大きく出ているわけなので、その中で旧市街としてやろうとしているので、言葉として、ファッションなどは入れていく必要はないのかという気がするのです。歴史、文化ということもより細かい言葉を使っていくというか、全部、歴史古町花街エリアなど、歴史だと簡単かもしれないですけども、もう少しワードの中に入れていくと分かりやすくなっていくのかなということは、今のお話を聞いて思いました。

(座 長)

ワーディングが少し安直ですよ。

(迫委員)

そう思います。キャッチコピーが大事だと思います。

(座 長)

それと先ほど、長谷川社長がおっしゃったように、2キロ圏内の中に住んでいらっしゃる方をターゲットにするということもすごく大事だから、両方、今のお話でA面とB面みたいに、ターゲットが複数あると。地元向けの発信ともっと広い発信ができるのではないかと。

(宮田委員)

私は、最初に古町で仕事をさせてもらったときには、全然誇りもなく仕事をさせてもらっていたのです。ですが、県外の方から教えてもらったところで、すごく誇るべきまちだということを経験し始めてから、働き方が変わったわけです。そのときに、やはり交流人口、県外から来るお客が大事だ。それをもっと呼ばなければということを経験したのです。

でも、最近、それだけではないなと思ってきたのです。それこそ、先ほど、社長がおっしゃった、これだけの地元の方が、正直、本町あたりにも集まってきていると思うのです。マンションも立つと思います。私はこの夏に香川県の丸亀商店街にたまたま行くことがあって、あそこは400年前からのまちだと言うのですけれども、古いものと新しいものと合わせてアーケードを全部つなげたというじゃないですか。その中で、でも100年、この後どう続くのかと思ったときに、みんなが不安になってしまって、皆さん、所有権を持ちながらも、そこを借地権で何とか切り上げ

て、アーケードをつなげて一つの通りにしてしまっ、それでいろいろなターゲット、若いファミリー層からその通りに全部作ってしまっ、それを私は商店街を歩いたら、ブランドショップから年配の行かれるショップからファミリー向けなどもいろいろつながっている。

だから、全体をうまくいかないかどうかということではなくて、きっとできると思うのです。その歴史をしもの港から入ってくる流れから、歩いてかみまで続ける。そこを全部個々のストーリーをつなげていくやり方は絶対にできると思う。丸亀とは違う形ではあるけれども、一つの歴史、明治、江戸時代からあるわけだからできると思うので、今、ここで皆さんと集まったことは、とても有意義な時間だなと感じて、私は今、すごく興奮しています。

(座長)

迫さんがおっしゃったような、分ける、というものを一つの通りの道行きで考えたら、もう少し広くアピールするようなところがあれば、もう少し地元に応じるようなところもあるので、うまくつなげられるのではないかと仰うことですよ。

(宮田委員)

はい。やはりもっと昔のように、中央区古町のところに住む人、住むこともすごく大事だなと思って、これからきっとビルが建つのですよね。上にマンションって「えっ？」と最初は思ったのです。でも、それもありがたかなと。雪は少なくなったら、皆さん、雪かきのことなど、そんなに心配はないのかもしれないですけども、でもやはりみんなまちに集まってくるということは、何かしら明かりが灯るので、これは理想論かもしれないですけども、自分が誇りを持って仕事ができるようになったということは、私たち商店主たちも、今、つなげようとしているのです。古町花街100年委員会というものを作ったのもその一つだし、実際に町内会がなくなっている状態なのです、街灯もつかず。ですがそこを私たち個々の店舗、今、なぜ私が事務局に出ているかといったら、みんな必死になって働いているからですよ、個人店主たちが。私よりも上の立場の人たちが。だから、私が今、来させてもらっている状況なのですけれども、なのでみんなそれぞれ小さい光りながらも、誇りを持って、そうするとそこから楽しいお話ができると、外の人たちも、私たちが「大好きだ、新潟」という感覚でお話をすると、県外の人たちもそれに乗っかってくれるというのは事実、本当に感じているので、理想論ですけども、もっと新潟の人たちを、自分たちで自分たちのまちを好きになるようなことをもっとするべきです。それをどういう形でどうできるのかということは、それこそ皆さんのお考え、いろいろ知恵を借りないといけないでしょうけれども、自分で少しでもできることはやっているつもりではいるのですけれども、理想論ですけども。

(座長)

ありがとうございます。私もひとこと言わせてもらおうと、外からの目から見ると、古町を全体として、一つ一つの通りが、幾つかの道路が段階的に構成されていて、一個一個がなるべくして

なっているのです。西堀、東堀だとか古町、本町があって、新道、東新道、西新道があって、そこからまたこう道がある。

これは岡崎先生に教えてもらったのだけれども。それが全体として組み合わせあって、全部残っているのです。物語はまさにおっしゃるようになって、それはほかの新しいところではないのです。新しいところは、同じような道がいろいろありますという感じですからね。

一個一個が明確なビジョンがあって、このまちが作られたのだなということを見ると分かるのです。だから、そこをうまく説明してあげると、それは住んでいる人だって気がついていないだけで面白いと思うのです。そういうものといろいろなここで言うさまざまなターゲット戦略がうまく結びつけば面白くなるかなと思います。

ほかに何かありませんか。

(知野委員)

先ほど堀と言われたのですけれども、堀割再生という団体に活動して 20 周年を迎えようとしている団体もあったり、寺町を盛り上げようという団体もあったり、古町はいろいろな活動をしている人たちがたくさんいるので、ストーリーではないですけれども、それをつなげることはできて、最初に言った全部をどうまとめるの、というところに至ると思うのですけれども、そこですよね。そこがいろいろな顔もあるし、とてもいいまちづくりとしての作り方もあるのだと思うのですけれども。

(迫委員)

歴史の話が出てきて、思ったのは、この古町地区の歴史というこの図があるように、もしかしたら古町が 1 番町、2 番町、3 番町から 5 番町という数字になっていることで、非常に雰囲気損ねているのかなという感じがしまして、中浜町とか、前に浜があったのだなと思うような、上大川前とか川があったのだなと思えるような、5 番町のところは 2 の町だったり、6 番町は 3 の町という言い方をされていたり、また片原通と書いてあって、そういう名称をもう一回使い出すというか、そういうのは面白いかもしれないと思います。

(座 長)

地名が歴史を語ってくれる。小路のようなものですか。

(迫委員)

小路はやられていますけれども、エリアをこういう呼び方をしていますとあって、その理由の看板がどんどんでき出すと、歴史を感じるのではないかと。

(座 長)

門前もそうですね。

(迫委員)

そうですね。

(座 長)

事務局に伺いますけれども、議論はこれでいいですか。あまり具体的に、事務局としては、多分、エリアはこれでいいのか、ということなのだけれども、いいですか。

(事務局)

はい、とにかくご意見をたくさん頂きたいです。我々、次回に向けてまた資料を作るにあたって、どんな方向感、多分、皆さんいろいろとあると思いますので、それをある程度、取捨選択しながら、我々は一つのものを作ればと考えています。

(座 長)

とにかく気持ちが伝わればいいと。

(事務局)

はい。どこまで反映できるかはあれですけれども。

(座 長)

ですから、思いの丈をいっていただくことが事務局にとってはいいということなので。

(事務局)

すみません、逆に今、お話で出てきた、例えば、いくつかエリアがあるのだけれども、それを一つにするということができるものですか。議論の一つとして放り込みたいと思ったのですけれども。

(迫委員)

聞いたらだめだと言われると思うのです。まちの人にどう思いますかと言ったら、絶対にいやだとか、みんな意見が違うのですけれども、こういう方向でいきたいと思いますと言ってやれば、そうかそうかという感じではないかと。

ただ、それがずっと、上古町に関しては足並みがそろわないと思ってやっているの、足並みをそろえるということは、なかなか難しいですよ。けれども、リーダーというか、方向づけた方がこれという意見をもう少し示されたほうが、分かりやすさというか、たくさん調べられているので、だいぶ見えてきていると思います。ですので、がつんと言っていたいただいてもいいのではないかという気はします。聞いたら多分、みんな違うというと思います。

(座 長)

悩ましいところですが、多少聞かないといけないと思うのですけれども。

(長谷川(正)委員)

余談ですが、これは忘れてください。

20年前、古町というのは、イトーヨーカドーの出向者もけっこういたのですけれども、東京の人からも、古町というのは夜のまちだというイメージだったのです。あのぼん引きさえなければ、あれは延々と続いたはずなのです。今のこの世の中、お酒の消費量は減っているのですけれども。

でも、そうは言っても、飲み屋に行く人たちってけっこういるわけです。この中でも相当行っている人はいると思うのです。私の行きつけのところも潰れましたけれども。

要は昔こうだったということが分からなければ、多分先にも進めないと思うのです。古町の歴史と言うのでしょうか。これも一つ手だと思えるのです。うちの関東に住んでいる姉貴から電話をもらったのですけれども、今、鍋茶屋さんは何をやっているのと。どういうことと。すごく有名な女優、吉永小百合さんと一緒に広告をやっているのだそうです。

(座 長)

J R 東日本ね。

(長谷川 (正) 委員)

前に佐渡の三角のところで頻繁にやっていて、鍋茶屋って、そんな有名なのという話で、昔から有名なのですけれども。今いろいろな手でやっているといるのですけれども、そういったPRをやればやるだけ、今度はものすごく外からの旅行客の方もけっこう来て、古町というものを見てくれるのではないかと思うのです。先ほども言ったように、広告、宣伝が弱いということも、そちらのほうからも攻めてもいいのではないかと思っております。

もう一つは、先ほど言った一緒にしたらどうだという話なのですが、先ほども言ったように、本町のどうも明確な年代層になっているのです。それが本町と古町が比べましたときは、うーん、というように思うのです。

要するに本町の歴史というのは、新潟市の台所なのです。古町の飲み屋、本町の古町の台所。この二つを言っているのです。そういったところからもやっていくと、先ほども言いましたけれども、ターゲットというものをもっと明確にしたほうがいいのではないかと思っております。

(座 長)

せっかく歴史が豊富で、大体、歴史がある都心部は、何らか文化にかかわるようなところで力を持っているのです。食文化でもそうなのだけれども。郊外の店舗は、たくさん、量販店は郊外になかなか競争できないのですけれども、文化的なものは、郊外に新たに作るということは普通ないので、それが大きな、どこまでたっても求心力になり得るのです。そこから語れるような物語がちゃんとないとね。

(長谷川 (雪) 委員)

文化の形成というのができればなと思っていまして、もちろん歴史もそうですけれども、そこでまた新しいものと集まってくる。上古町のお店などはそうだと思うのですけれども、やはりそこでしかないものをけっこう作っていらっしゃって、私もうちの学生などにどういふときに万代に行って、どういふときに古町へ行くのと話をしたら、万代には普通のものを買に行くというのです。おしゃれなイメージがあるのですけれども、よく考えたら、どこでも売っているもので、それを買に行く。古町のほうには、そこにしかない自分なりのこだわりのものを見つけに行く

という話をするので。やはり歴史がある、そして文化があると。そこでその文化を組み入れながら、また入るお店を作れる方が集まって、実際に出していくということが、また新たな文化を作っていくのであり、そこでまた若い人も寄ってくるのだとすると、やはりもともとある文化を、一つの歴史と文化を活かしながら、それをまた新しいものに活かしていくというイメージが古町にはあるのかと思っています。

(岡崎委員)

先ほど、迫さんがおっしゃったように、核となるものがあると思うのです。エリア分けはしても、しなくても別にいいというか、一緒くたに全部片付くわけではないので、それはしなければいけない部分もあるし、それこそ新潟古町全体としてという面もある。それこそ先ほどのA面、B面のレイヤーがあっていいと思うのです。ただ、濃淡というか、例えば、榎谷小路でできることと、東新道でできることは全然違って、それが外に対する影響も全然違うわけです。

やはりもうできることが目に見えるところを早くやるのが一番大事だと思っていて、例えば、空き家の問題にしろ、住みたい人の問題、観光客の関係にしろ、いずれにしてもベースとしてのハード整備がないと、それは進まないのです。それをやれば必ず効果が出るのは、よそのまちを見れば明らかですので、とにかくお金がないということはあるものの、そのうちもし、多少なりとも余裕ができるのであれば、そのときのための準備に向けて、具体的にどこをどうするという話をしなければならない。

それは当然、そのエリアごとによって違うのだけれども、はっきりできることが見えているところがありますので、その辺を重点的にねらって、それは下町も、先日、住民提案で景観特別区域をやりましたし、西大畑はもうすでにできていますし、実際、観光客も西大畑の白壁通あたりなどたくさん来ていますから。当然ですけれどもカミフルもそうです。そういったところをやっていくということの、ただ、もちろんその必要性なりを市民全員の方にきちんと理解いただいて、あるいは古町地区のほかの方の理解を頂いて、それこそ先ほど言ったルールや整備イメージとか、そういった具体的な方向の合意形成は当然必要ですので、そういうものにつながればいいのかと思います。

(座長)

フラッグシッププロジェクトみたいなものを平行してビジョンの絵を描くだけでなく、動くものは動かしたほうがいいのではないかということですね。ほかはいかがでしょうか。

(迫委員)

古い地域に新しいサインを入れたほうがいいのかと。ロゴではないですけども、マークだとか看板が、古いところに古い感じでつけると古くなってしまおうと思うのですけれども、若い人、今の人来てもらおうという感じだと、すっきりしたような、デザインというものをきちんとやっていったほうがいいのかと。

都市デザインなどグラフィックデザインというところを入れていくことで、視認性が高まったり、おしゃれだなという感じが出ると思うので、それは意外と今までそんなに手が入っていないかなというか、古町はおしゃれな人も多く、センスがいい方も多いので、もう少しデザインというものを活用していくとぐっとよくなるような気がすると言いつorgetていたので、大事なポイントかなと思いました。

ただ、統一感があればいいというわけでもないのですけれども、紙資料のもので、地域資源は統一感のあるバナーというものがあるのですけれども、この統一感のあるバナーもよくないと思っていて、わくわくしない。ここはこういう場所ですよというサインは必要なのですけれども、何のためにあるサインなのかというところの分析をもう少しやると、まちがわくわくするとか、ドカベン像のわきに面白いサインというか、看板があれば、これはもっと楽しめるものなのです、ソフトっぽいハードというか、編集的な取組みがもっとあれば、あまりお金をかけずにまちがわくわくできるのではないかという気はしました。赤いものと青いものが正しいかということは、一個ずつ細かく、色の見方によると思うのですけれども、分析というか、見たほうが、捉え方が変わるので危険かなという気はします。

(座 長)

つまりこの枠組みはエリアごとにとにかくやるということ突き詰めるみたいな感じで書かれているけれども、もう少し全体としてやれることがあって、それで全体のイメージアップなどを提案するようなこともあるのではないかということですね。

(迫委員)

ネーミングなども非常に重要なポイントなので、何となくつけないほうがいいというか、それを検討して意味があるのかなという気はします。

(座 長)

ほかはいかがでしょうか。

(迫委員)

もう一ついいですか。最近、花街にやっと思いが始まって、この花街が、昼間もっと行けたらいいなと思っていて、昼、お客さんが来られる店の強化というものがいいですね。雑貨やスイーツが食べられる店が花街にぼんぼんぼんと、3個できれば人は回ると思うので。それをやるだけでも一気に注目度は上がります。ガイドブックにすぐ載るようになって、いい気がします。

(座 長)

分かりました。つまり花街の昼間対策みたいなこと。

(岡崎委員)

おっしゃるとおりだと思うのですけれども、なぜ昼間、お店ができないかというのと、お客さんが来ないからなのですね。

(迫委員)

そうですね。その逆がやればいいですね。

(岡崎委員)

だからそのためにはやはりハード整備なのです。昼間でも来たくなるような景観ができれば、そういう人たちが来るのです。そのベースを作っておかないと、民間の自主努力で出店しろと言っても無理なのです。だからやはりそこが、昼間、来ていいまちなのですよというか、来たら面白いまちですよという整備をしないと来ないし、逆に言えば、すれば来るのです。京都、金沢を見れば明らかですけども、本来、夜のまちの花街が昼のまちになってしまっているわけで、それがいいかどうかは別として、ですけども、そういう効果も絶大ではっきり出ますので。

(迫委員)

一般の外の市民からすると、花街にはそんなに用事がないと思っている方が多いので、日中楽しめるといいですね。カミフルに関しては、ソフトを十分にやった後のハードができたという形だったので、ハードが使いこなせたというのが、非常にポイントになったと思うのです。ですので、ソフトがないときにハードだけだったものが、ソフトが整ってきているというか、頑張っている方がいるという状況であるのであれば、ハードをした意味が出てくるのかなという気がします。

(座 長)

ほかにいかがでしょうか。

(宮田委員)

カミフルのほうだと門前といったらあれですけども、看板などのデザインという話がありましたけれども、照明もこだわって作ったのですね。

(迫委員)

そうですね。アーケードを作るときに、照明デザイナーにも見ていただいたり、柱の色の実験などをやらせていただいて、あとはそれに合わせて新潟市にも道路の整備のときに色など、いろいろ気を遣ってくださったので、ちょうどいいというか、我々は、やってよかったなというか。アーケードが目立つべきではないというか、歩道とかに来るわけではないので、お店にいらっしやると。お店が気になるような作りにしたのがよかった。

ハードが整うというのが分かってから出店された方も非常に多かったのですが、やはりハードの意味は非常にありましたね。貸したいという方がベースですけども、35パーセントの空き店舗が3パーセントくらいまで下がったわけですので、非常にありがたいなというところではあります。時間がたっていくと、また町内によって温度差が出てきていますので、いろいろあってもいいですけども、継続というのは難しいなど。

(前川委員)

ターゲットの話になると、古町の場合、まとまらなくなるのです。当然、業種、業態ばらばらなので、とらえるお客さんが全部違う。一番それが端的に表れるのは、販促活動なのです。何かイベントをやりましようとなると、必ず収拾がつかないのです。とらえるお客さんが違ってくるので。

迫さんが最初の人に言われた内向けと外向けの意識の切り分けで働きかけるとするのは、今まであまりそういう発想がなかったと。であれば、内向けの人たちに対して、どういう古町の注目のされ方が望ましいのだろうと。外の人たちに対しては、どういうあり方が望ましいのだろうという部分は、非常にポイントになるところなのかなと思います。ただ、外向けの働きかけの中で注意しなければいけないのは、我々灯台もと暗しみたいな形で、日常ずっとこの界隈にいと、その風景が当たり前になっていて、貴重なものだという自覚がなくなってしまうのです。鍋茶屋の石畳のところなど毎日歩いていると、それが当たり前という雰囲気になって、これが貴重なものだという意識が全くなくなってしまう。けっこうそういったようなものというのが、我々地元の商店街の人たちは、そういう埋没していることすら気づかないことが非常に多くて、そういうところから外の人からの指摘も非常にご意見としては伺わなければいけない部分があると思いますし、外向けに何か意識するとき、この中で何に価値があるのだろうということは、やはりアンテナをかなり鋭く立てて、仕組みでいかないといけないことなのだなということは、最近、どんどん思うことです。

あとは、カミフルも共通して、我々商店街の中で、お客さんが歩き回る仕掛けとして、アーケードというものをしつらえているのですけれども、これがやはりお客さんの回遊性を維持する中では、非常に重要な施設になっているのです。雨は当たらずして、お買い物のショッピングバッグを持って歩き回れるというのは、非常に重宝している話なのですけれども、一方でアーケードを下支えしているのは、実は商店主たちで、老朽化で雨漏りしたときの補修の工事とか、そういった部分。

行政からの多大な補助も頂きながらやっている部分もあるのですけれども、アーケードを下支えして維持して、回遊ができるような仕組みというものは、古町が今、備わっている機能ではあるのですけれども、実はその機能の外のところ、例えば、新潟駅から古町まで誘客する仕掛けが非常に弱いかなと。私もほかの地方都市をいろいろ見て回って感じるころは、金沢の駅前から片町とか、仙台のあおば通のところを見ていると、バス一つ見たとしても、バスの料金が新潟駅から古町まで高いなと感じます。大体、100円で行けるような、他の都市だと距離感が倍になっているというのは、少し行きづらいなというところ。

最近、自転車で、新潟は非常に冬と夏の天気の違いが大きくあるので、レンタサイクルで来られる方もけっこういて、自転車はもっと伸びしろがあるのだろうという部分はあるのですけれども

も、実はレンタサイクルの仕組みも非常にご苦勞されているという話も聞いている中で、何かしら回遊性の促進みたいなものも、この中でいろいろと考えていかなければいけない部分なのだろうと思ったりすることもあります。

(座 長)

特に駅からどのようにうまく行くかですね。

(前川委員)

そうです。

(座 長)

アーケードのことにしても、アーケードは一時期、悪者みたいに言われましたけれども、ある意味、商店主の心意気なのですよね、きちんとやられているわけだから。いいアーケードを作っていくみたいなことが、ここでうまくできれば、新しい展開ができるわけですね。

(前川委員)

デザインそれぞれの街区がみんなばらばらなのですけれども、それはそれで面白いのかなと、それぞれ個性があって。

(座 長)

デザインがよければいいのだけれども、もう少しよくしてほしい気もしますけれども。

(迫委員)

要望なのですけれども、今日も新潟交通に会ったので言ったのですけれども、横ですね。上下のほうをつなぐバス。高齢者の方も便利な、ずっと行ったり来たりしているようなバスがあると非常にいいと。私は、新潟市美術館のミュージアムショップもやらせてもらっているのですけれども、周遊バスが新潟市美術館前というのがなくなりまして、クレームというか、お客様で何でなくなったのだと。めちゃくちゃいるわけではないし、皆さん乗らないのでなくなっているのですけれども、文化とか、歴史とか言っている割には横のラインのバスが不便だなと。新潟駅からではなく、榎谷小路を中心とした横のバスが走っていると、足が悪い方も遠くまで行ってみようかなとか。

西堀と東堀をぐるぐるでもいいのですけれども、県外の方など、意外と地元の人も便利だったりするのかなという気もしたりするので、そういういい方法があればいいような気がします。

(知野委員)

時間が早いのですね。その施設の終わる時間だから4時半とか、5時くらいまでしか周遊バスの時間がないから。

(迫委員)

広域ですしね。1周1時間くらいかかって。

(知野委員)

できれば、全体を考えるならば、8時、9時までぐるぐるしていただけると。

(迫委員)

小分けにするといいですね。全部回るとね。

(座 長)

都心の古町のあたりは。

(迫委員)

そうですね。マリンピアまで行かなくても。

(座 長)

ほかにいかがでしょう。

(佐野委員代理)

資料3の3ページにある新潟都心の都市デザインについてというところで、古町のところだと鍋茶屋の前に芸妓さん2人の絵が描いてあって、これだけなのですけれども、これだけ見ると花街というイメージが大きく全面に出されているわけなのですけれども、今、皆さん方のいろいろなお話が出てきた中で、古町全体にとってのイメージを作ったほうがいいとか、いろいろありました。ここに芸妓さんではない何らかの絵を描くとしたら、最終的にどういうイメージになるのかと。どういうところに着地をするのか。これだとまるで芸妓さんのまちみたいなイメージしか、ここでは見て取れないので、古町全体のイメージを最初にぱっと来る。ここに何が来るのかなということが最後の結論が楽しみだなと思いつつも、難しいのかなと思っています。

(座 長)

今、市がイメージされているのは、これの古町版なので、五つゾーンがあるのであれば、五つのパースがあって、それぞれが描いてあるという感じのイメージなのですね。

(佐野委員代理)

それだと古町ばかりがあればこれもみたいになるので、ほかの地区を見るとそれなりにまとまっているわけですね。弁天ルートとか、東大通りルート、それなりに確かにこういうイメージだなというイメージがしやすいですけれども、古町だけが少し芸妓さんだけというのは少し寂しいのかなと。ここに何かしら、最後絵が必要。

(事務局)

言い訳をさせてください。実は、この都市デザインの今、おっしゃっている**資料3**の3ページをまとめたときには、私どもの議論が、新潟駅から信濃川あたりを中心に議論していきまして、そこについては将来像が見えるような絵を描かせていただいたのですが、古町花街については、そこまで議論が至っていなかったというのが正直なところです。したがって、これを作ったときは、ここについては絵をかけなかった。芸妓さんと鍋茶屋風の絵であれば、とりあえず現況ですよ。

そこは変わりませんよねと。一旦、これは置いておきましょうという絵であって、まさに今、ご発言があったように、今日、これから始まるこの懇談会等で、皆さんからいろいろなご意見を頂いたうえで、ここにはまる絵、それが5つになるのか、1つになるのか分かりませんが、それを描かせていただきたい。それに向かって年度内に頑張らせていただきたいということでございますので。

(佐野委員代理)

そうですね。最初にそんなご説明を受けたので、そういう話し合いが進んでいくのだろうと、皆さんのお話を聞いていると、ますます難しいなど。最後のまとめが難しそうだなと思いながら聞いておりましたけれども。

(座長)

あくまでもこの絵は、とにかく駅が変わるので、駅から萬代橋までは何とかしなければいけないということで書いて、私は古町まで書くべきだと言ってきたのですけれども、まずはこちら側だということだったので、でもその宿題が今年、こういった形でやっていただいているということ。この半年間でいろいろ動いていただけるといいなど。

ほかに何かありますか。

(知野委員)

いい面と悪い面と分けるわけではないのですけれども、先ほど、上古町門前町のほうからずっと来ていろいろな顔がありますよといった中で、古町という全体のイメージは置いておいたとしても、いつも8番町の鍋茶屋があってというところでもあるのですけれども、実は夜のお店のほうがどちらかというと大きいというところもあるので、そういうものも一緒にイメージの中の一つ入れていくのも、まち全体として考えていくことも必要かなと。そういう人たちも入れていかないと、やはり景観だったりとか、そういうことも含めて、例えば、看板だったり、チカチカしないで、こういう全体のイメージがあるから一緒にまちを盛り上げていくのであるならば、おねえさんたちの見せ方というものも考えていかなくてはいけないのかなとなると、8番町でおねえさんたちがいらっしゃるお店屋さんたちも一緒に参加できるような、声かけができるようなものにしていただけたらいいかなと。今の絵だけだとこれしかないのですけれども、多分、すごく8番町自体の顔というのは、もう一つあるのではないかと。

(座長)

夜のイメージをどうするかということは、すごく大事な話題なので、そのときに最近はナイトタイムエコノミーはすごく大事だと言われているのですけれども、なかなか普通のところではイメージがわからないのです。

(宮田委員)

9番町は9番町で美食めぐりだったり、料亭の方々だったり、いろいろな割烹屋さんだったり

ということもありますし、そういうところもあるなと思いました。

(座 長)

そろそろ予定の時間ですけれども、よろしいですか。ぜひこれだけは言っておきたいということがあれば。

私が聞いていて思うのは、1つはターゲットの話なので、中の人々の議論だとか、もう少し住んでいる人と外向けというものを分けて両方でやると整理がついていいのではないかということ、いろいろな方がおっしゃったかなど。それから住むということもあるので、住むということもしっかり大事にしてほしいと。ネーミングも大事なので、ネーミングもきちんと考えてほしいということ。まちや通りには物語があるので、もう少しゾーンもいいけれども、通りそれぞれの個性だとか、両方の戦略というものがあるかなと思います。その中にアーケードの話もあります。

全体としてみると、ここには昼も夜も文化がベースとしてあるので、そこをきちんと表に出るようなことというのが、ある意味、非常に大きな共通のベースになり得るかなという感じがお話をお聞きしていて思います。

もう一つは、これは今、ビジョンなのでふわっとしているけれども、ある程度、具体的に動くものがあるのであれば、そういうことも横目に置きながらやっていただくと。例えば、駅とどうつなげるかとか、川沿いの漁港の連続性だとか、重要なところに関して、景観整備みたいなものが動きそうなので、このイメージを具体的に何かやるとしたら何なのかと言われたときに、言えるようなものがあるといいかと思いました。

たくさんのご意見が出ましたけれども、いろいろな形でまとめられるのではないかと思います。そういうことで、よろしいでしょうか。一応、時間がこのあたりだということなのですが。

あと時間がなかなかないので、発言できなかった部分や、これから先、思いついて提言したいというものに関しては、事務局のほうで何か用紙があるのですね。ということで、いろいろな形で提出していただければいいということで、メールか何か、データでももらえますか。何らかの形で事務局に出していただければ、それも反映できるということで、例えば、周りの方たちの何かいろいろなアイデアがあればお願いしたいと思っております。提出の方法など説明してもらえますか。

(事務局)

今、書式をお渡ししましたけれども、別にこれによる必要はございませんので、例えば、メールの直打ちでもけっこうでございます。私たちが頂きたいのは、この資料 No. のこの部分について、例えばこういうものをもっと加えたほうがいいのではないかとか、こういう視点のものをといったご意見が頂けるとありがたいので、これで頂ければ一番ありがたいですが、わざわざこの書式の中に放り込まなくてもメール直打ちでも、ファックスでも何でもけっこうでございます。頂ければ。

(座 長)

資料 No. というのは、**資料3**でこういうことも書いてほしいとか、そういうことですか。

(事務局)

はい、例えば、**資料3**の何ページのところがこんな書き方になっているけれども、こうなったほうがいいのではないか、みたいなどころでもけっこうでございますので、頂けるとありがたいなというのが一つ。

もう一つですが、我々頂いたご意見を次回、何らかの漫画チックになるかもしれないのですが、こんなイメージを想定してみたのですがどうでしょうかということで、絵みたいなものをご用意できればと思っているものですから、それに係る作業を考えると、できればご意見も 10 月中に頂けると大変ありがたいなど。少し早めに、殴り書きでもけっこうでございますので、頂けましたら次の会議の資料の準備がけっこういいものになるかなと思いますので、ご協力いただければと思います。申し訳ございません。

(座 長)

最終的にパースのような絵を描きたいというのが事務局の構想のようで、絵というのはなかなか一つに固まってしまうと、ほかのものがこれでない、逆に誤解を与えることもあるので、注意はしないといけないと思うのですけれども、でも分かりやすいと言えば分かりやすいので、地域のイメージがね。そのことに関して、絵だけではなくて、例えば、先ほどあったすごく的確なネーミングだとか、別な形で情報を発信することが門前なら門前とカミフル門前エリアとか、そういうネーミングで発信するというのもあると思うので、その辺も皆さん、アイデアがあれば。パースだけ出て、パースだけが一人歩きすると想定外のことが起きる可能性もあるので、ぜひその辺もアイデアがあればお願いしたいと。よろしいでしょうか。

それでは、こういったことで事務局に進行をお返ししてよろしいでしょうか。

(司 会)

皆様ありがとうございました。

それでは、事務局より次第第6その他として、今後のスケジュールについてご説明申し上げます。

次回、第2回の懇談会につきましては、日程を指定する形になり大変恐縮ではございますが、12月19日(木)13時から2時間ということで開催させていただきたいと考えております。12月19日(木)の13時からでございます。会場やその他詳細につきましては、後日、改めてご連絡させていただきますので、よろしく願いいたします。

第3回については、2月で開催予定なのですが、そのあたりは委員の皆様とも日程調整をして確定させたいと思いますので、現時点では2月中旬、下旬あたりというところでご勘弁いただきたいと思っております。

(座 長)

それはそれぞれのところに日程調整をしていただけるということですね。

(司 会)

はい。ありがとうございます。

それでは、最後に中川統括政策監より閉会のごあいさつを申し上げます。

(統括政策監)

皆様、2時間にわたりまして、ご意見いただきましてありがとうございました。だいぶたくさん頂いたので、次回の資料をどういった形でまとめようかということは、これから戻ってメンバーを相談させていただきながら、なるべく申し上げましたように、広くどんな方が見ても大体、ああなるほどねというようなイメージを持ってもらうというために絵を作りたいなと思っておりますが、絵の危険性も今、ご指摘受けましたので、その辺を踏まえながら、最終形をにらみつつ、今回、頂いたご意見を基に、次回の資料作成に入らせていただきたいと思います。また、後ほど、頂く意見について、我々のほうでまたリアクションでどういう意味でしょうかねと確認をする可能性もありますが、またそのときは、ぜひ教えていただければと思っています。

本日は、大変貴重なご意見をたくさん頂きまして、ありがとうございました。また、次回もよろしくお願ひしたいと思っています。本当にありがとうございました。